

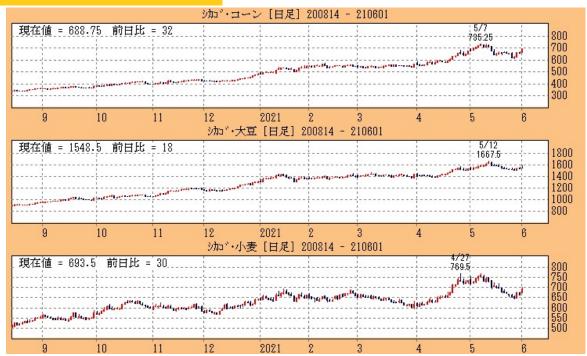
週刊穀物

世界の穀物情報がここに凝縮されています。 毎週水曜日夕方発行



トウモロコシ、大豆は反発

発行日 : 2021/6/2



1日のシカゴトウモロコシ7月限は前日比+32.00セント高の688.75セントと大幅反発。取引レンジは660.75セント~696.75セント。週末に零下をつけた米産地で、今週後半からかなり気温が上昇するとみられており、作柄悪化を警戒する買いが入った。また、ブラジルの第二期作の生産量予測が下方修正されたことから、需給逼迫を見込む買いも入り、一時、ストップ高となる40セント高、696.75セントの高値まで上げ幅を拡大した。原油高もバイオ燃料の原料であるトウモロコシの支援材料となった。その後は、高値では利益確定売りがでたものの、米産地の天候リスクが買い材料となっており、高値圏を維持したまま取引を終えた。

1日のシカゴ大豆7月限は前日比+18.00セント高の1548.50セントと反発。取引レンジは1537.25セント~1578.50セント。米産地での高温乾燥やコーンの上昇を受けて買いが優勢となり、1578.50セントの高値を付けたものの、上値警戒感に加え、米農務省(USDA)発表の輸出検証高が低調な状態が続いていることも弱材料となり、上げ幅を縮小した。ブラジル大豆が過去最高の大豊作が見込まれていることも圧迫要因となった。

1日のシカゴ小麦7月限は前日比+30,00セント高の693,50セントと大幅反発。取引レンジは672,00セント~702,00セント。米産地での高温乾燥とこれに伴う生育不良に対する警戒感を受けて買いが入った。今後も主要な産地で熱波と乾燥が見込まれていることが背景。

TOPICs Crop Progress

トウ	18州		
Planted (作付)	前年度	2020 年度	過去5 年平均
4月4日	2%	2%	2%
4月11日	3%	4%	3%
4月18日	6%	8%	8%
4月25日	24%	17%	20%
5月2日	48%	46%	36%
5月9日	65%	67%	52%
5月16日	78%	80%	68%
5月23日	87%	90%	80%
5月30日	92%	95%	87%

トウ .	18州								
Emerged (発芽)	前年度	2020 年度	過去5 年平均						
4月18日	1%	2%	1%						
4月25日	3%	3%	4%						
5月2日	7%	8%	9%						
5月9日	22%	20%	19%						
5月16日	40%	41%	36%						
5月23日	61%	64%	54%						
5月30日	76%	81%	70%						

5	18州		
Planted (作付)	前年度	2020 年度	過去5 年平均
4月18日	2%	3%	2%
4月25日	7%	8%	5%
5月2日	21%	24%	11%
5月9日	36%	42%	22%
5月16日	51%	61%	37%
5月23日	63%	75%	54%
5月30日	74%	84%	67%



冬小麦									
作柄	Very Poor	ery Poor Poor		Good	Excellent	優と良			
5月30日	1%	2%	20%	62%	14%	76%			
前年度	1%	3%	22%	61%	13%	74%			

7	18州					
Emerged (発芽)	2020 年度	過去5 年平均				
5月9日	6%	10%	4%			
5月16日	16%	20%	12%			
5月23日	33%	41%	25%			
5月30日	0,5000					

冬	18州		
Headed	2020 年度	過去5 年平均	
4月4日	3%	4%	3%
4月11日	6%	5%	7%
4月18日	13%	10%	14%
4月25日	20%	17%	23%
5月2日	30%	27%	34%
5月9日	42%	38%	46%
5月16日	54%	53%	58%
5月23日	66%	67%	69%
5月30日	76%	79%	78%

冬小麦										
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良				
4月11日	6%	11%	30%	46%	7%	53%				
4月18日	6%	11%	30%	46%	7%	53%				
4月25日	6%	13%	32%	43%	6%	49%				
5月2日	6%	13%	33%	42%	6%	48%				
5月9日	5%	13%	33%	42%	7%	49%				
5月16日	6%	13%	33%	41%	7%	48%				
5月23日	5%	13%	35%	41%	7%	48%				
5月30日	6%	13%	33%	40%	8%	48%				
前年度	6%	13%	30%	43%	8%	51%				

春	春小麦							
Planted (作付)	前年度	2020 年度	過去5 年平均					
4月4日	3%	5%	2%					
4月11日	5%	11%	6%					
4月18日	7%	19%	12%					
4月25日	13%	28%	19%					
5月2日	27%	49%	32%					
5月9日	40%	70%	51%					
5月16日	57%	85%	71%					
5月23日	76%	94%	85%					
5月30日	90%	97%	93%					

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	6州		
Emerged (発芽)	前年度	2020 年度	過去5 年平均
4月25日	4%	7%	5%
5月2日	6%	14%	10%
5月9日	15%	29%	20%
5月16日	28%	47%	36%
5月23日	48%	66%	56%
5月30日	65%	80%	73%

春小麦									
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良			
5月30日	4%	16%	37%	39%	4%	43%			
前年度	1%	1%	18%	72%	8%	80%			

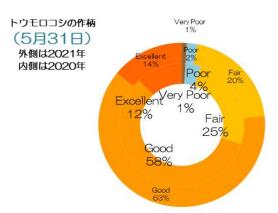
5月23日までの週の米国のトウモロコシ作付けは90%完了。発芽は64%、大豆の作付けは75%完了。発芽は41%いずれも平年より良く順調である。冬小麦はHeadedが67%完了で少し例年より遅れ、春小麦の作付けは94%完了で非常に早く、開花も66%完了で例年より早い。

5月30日までのトウモロコシ 21/22年度の 作付 進捗状況 過去5年平均 一 前年度 -2021年度 100% 95% 90% 92% 80% 70% 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0%

5月30日までのトウモロコシ

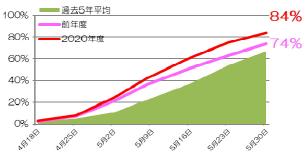




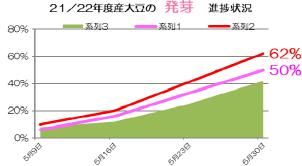


5月30までのまでの

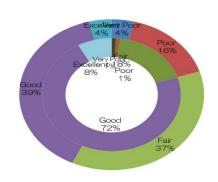
21/22年度産人豆の 作付 進捗状況



5月30日までのまでの



2021年5月30日春小麦の作柄 (内側前年度;外側今年度)



5月30日まで21/22年度米国産 春小麦の作付進捗状況



5月30日まで21/22年度米国産 春小麦の開花進捗状況



TOPICs アルゼンチンのトウモロコシ需給 by USDA Gain Report 2021年4月30日

アルゼンチンの飼料用穀物

21/22年の小麦の生産量は過去最高の2,050万トン、輸出量は1,390万トン(小麦粉を含む)と予測され ている。また、大麦の生産量は、栽培面積の増加により480万トンと増加傾向にあり、輸出量は320万トンに なると予想される。トウモロコシは、史上3番目の収穫量となる5,000万トンの生産量を見込み、輸出量は 3,500万トンに増加すると予想する。同様に、ソルガムの栽培面積、生産量、輸出量も増加し、米の栽培面積、 生産量も増加傾向にあると予想している。



アルゼンチンのトウモロコシの需給

						20	2021年4月21日		USDA GAIN Report			
チトン・チ ヘクタール	18/19年度	前年比	前年比%	19/20年度	前年比	前年比%	20/21年度	前年比	前年比%	21/22年度	前年比	前年比%
収穫面積	6,100	+900	+17.3%	6,300	+200	+3.3%	6.100	▲ 200	▲32%	6,200	+100	+1.6%
期初在庫	2,407	▲2.866	▲54.4%	2,367	▲ 40	▲1.7%	3.601	+1,234	+52.1%	3,105	▲496	▲ 13.8%
生産	51,000	+19,000	+59.4%	51.000	+0	+0.0%	47.000	▲ 4,000	▲7.8%	50,000	+3,000	+6.4%
輸入(穀物年度)	5	▲2	▲28.6%	4	▲1	▲20.0%	4	+0	+0.0%	4	+0	+0.0%
輸入(暦年)	5	▲2	▲28.6%	3	▲2	▲ 40.0%	4	+1	+33.3%	4	+0	+0.0%
供給合計	53,412	+16,132	+43.3%	53,371	▲ 41	▲0.1%	50,605	▲2,766	▲52%	53.109	+2.504	+4.9%
輸出(穀物年度)	37,244	+14,771	+65.7%	36,270	▲974	▲26%	33,500	▲2,770	▲7.6%	35,000	+1,500	+4.5%
輸出(暦年)	32,879	+8.679	+35.9%	39.917	+7,038	+21.4%	31,500	▲8,417	▲21.1%	35,000	+3,500	+11.1%
飼料用その他	9.700	+1,200	+14.1%	9.500	▲ 200	▲2.1%	10,000	+500	+5.3%	10,000	+0	+0.0%
食料用需要	4,100	+200	+5.1%	4,000	▲ 100	▲2.4%	4,000	+0	+0.0%	4.100	+100	+2.5%
国内需要合計	13.000	+600	+4.8%	13.500	+500	+3.8%	14.000	+500	+3.7%	14,500	+500	+3.6%
期末在庫	2,368	▲39	▲ 1.6%	3,601	+1,233	+52.1%	3,105	▲496	▲ 13.8%	3,609	+504	+16.2%
期末在庫率	5.2%	▲1.4%	▲21.5%	6.7%	+1.6%	+30.6%	6.8%	+0	+1.2%	7.3%	+0.5%	+6.8%
生産+輸入(①)	53,412	+16,132	+43.3%	53,371	▲ 41	▲0.1%	50,605	▲2,766	▲52%	53.109	+2,504	+4.9%
国内消費+輸出(2)	45.879	+9.279	+25.4%	53.417	+7,538	+16.4%	45.500	▲7.917	▲ 14.8%	49,500	+4,000	+8.8%
無路バランス (①一②)	+7,533			▲46			+5.105			+3,609	WAY SERVICE	
単収	8.3607	+2.2069		8.0952	▲0.2655		7.7049	▲0.3903		8.0645	+0.3596	

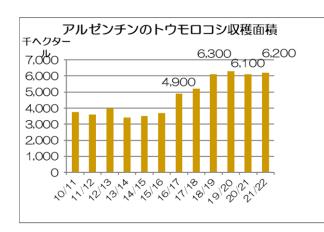
アルゼンチンのトウモロコシ生産

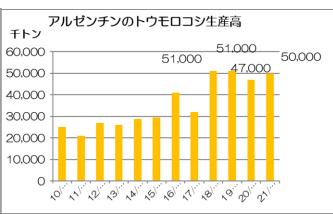
21/22 年のトウモロコシ生産量は、平年よりも収穫量が少なかった前年よりも300万トン多い5,000万トンとなる見込み。作付面積は620万ヘクタールと、過去3年の販売シーズンと同様にわずかに増加すると予想している。

現在の高いトウモロコシ先物価格により、生産者の収益性が期待できる。アルゼンチンの主要な中核生産地域では、トウモロコシの収益はファーストクロップの大豆よりも20%近く高くなっている。しかし、トウモロコシの生産コストは、大豆の生産コストよりも60~80%高いため、土地を借りている生産者の多くは、大豆の作付けを選択している。次のグラフは、2015年からのロサリオ市場におけるトウモロコシの4月の年間スポット価格で、現在の高値をみることができる。

肥料を中心とした投入コストの上昇、政府の輸出制限政策の可能性、ヒマワリやソルガムの作付面積の増加予測などの要因により、良好な収穫量にもかかわらず、2021/22年度のトウモロコシの作付面積はわずか+10万へクタールの増加にとどまると予測している。

2015/16年度は、トウモロコシ(商業用)の作付け1ヘクタールに対して、大豆の作付けが5ヘクタールだった。過去2シーズンの間に、この比率は1:2.6に縮小した。トウモロコシの生産は、大豆に比べて生産者にとっていくつかの利点がある。最も重要なのは種子技術の進歩で、収量と生産量の安定性をもたらし、特に乾燥した環境ではトウモロコシが大豆よりも優れている。近年、トウモロコシの遅植えが普及してきたことで、二期作大豆の代わりに何千ヘクタールものトウモロコシを栽培する可能性も出てきた。トウモロコシは病害虫や雑草の監視が少なくて済み、特に深刻な問題となっているグリホサート耐性の雑草を防除することができ、土壌ローテーションにも有効な作物である。







前年度のトウモロコシ生産量

20/21 年度のトウモロコシ生産量は、USDA および市場の予想通り 4,700万トンとなる見込み。春は乾燥し、夏は不定期に雨が降ったため、平均収量は昨年より▲ 5%低下すると予想されている。

一般的に、総作付面積の約 40%を占めるアーリーコーンは、発育サイクルの中でちょうど良い時期に雨を受けた。

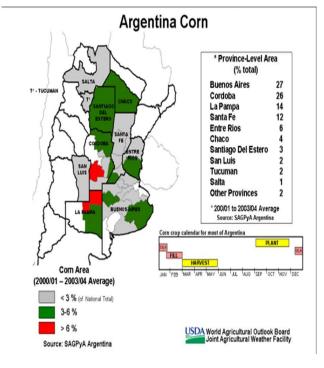
レイトコーンの収量は、全作付面積の約60パーセントを占めているが、特に主要なコーン生産州であるコルドバ州での好天と湿気により、5年間の平均値と同程度になると予想されている。

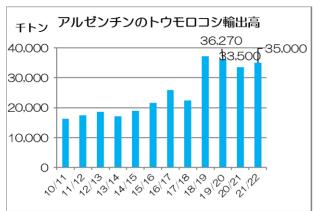
しかし、チャコ州の雨は収量にプラスの影響を与えるには遅すぎた。ほとんどの農家がトウモロコシではなく大豆の収穫に切り替えたため、トウモロコシの収穫は遅れており、全国レベルで15~18%となっている。

アルゼンチンのトウモロコシ輸出量

21/22 年度のトウモロコシ輸出量は 3,500万トンと予想されており、前シーズンよりも増加する。これは、生産量が +300万トン増加する一方で、国内消費量が 50万トンしか増加しないため、輸出用の供給量が多くなるためである。現地のブローカーは、アルゼンチンがこの量を出荷できると確信しており、市場の状況次第ではそれ以上の量を出荷できるかもしれない。

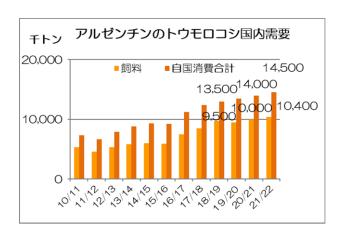
19/20年度のアルゼンチンのトウモロコシ輸出量の40%を占めるベトナム、エジプト、アルジェリアは、ここ数年、上位の輸出先となっている。アルゼンチンのトウモロコシは50以上の市場に輸出されている。20/21年度の輸出量は3,350万トンと予測されているが、これはUSDAよりも50万トンゆない量である。現在までのところ、今年の輸出申告は2,120万トンで、昨年と同じである。2021年3月~7月の輸出申告量は1700万~1,800万トンである。





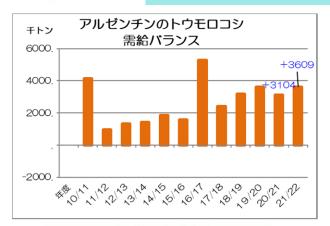
アルゼンチンのトウモロコシ国内需要

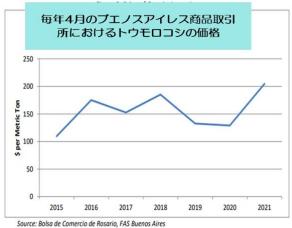
21/22年度の国内消費量は、前年度比+3.5%増の1,450万トンと予測している。現地のアナリストは、2022年までに世界経済は新型コロナウィルスによる混乱から正常化し始めると考えている。バイオエタノールプラント用のトウモロコシ需要の先行きについては、アルゼンチンのバイオ燃料法が5月に期限切れを迎えるため、現在は流動的である。義務化の更新や修正に関する法律上の対応は、現時点では不明。市場に出回るソルガムの在庫が増えれば、トウモロコシの需要増は抑えられるだろう。



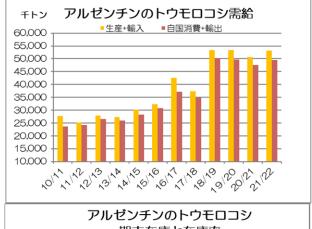


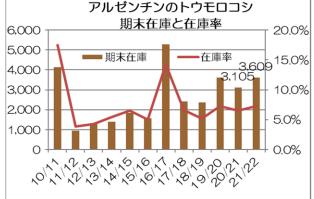
トウモロコシの在庫





21/22年度のトウモロコシ在庫は、政府が供給不足による価格上昇圧力を避けるため、国内市場に十分な供給を望んでいることから、300~400万トン程度に留まると予想される。





今後の予想

シカゴトウモロコシは、5月7日の735.25セントを頂点に下落し、5月26日の502.75ドルから再度反発している。ただ、上昇の勢いは弱まっていると思われ、横ばい圏に入ったかもしてない。アルゼンチンに関しては国内価格が上昇しているため、需要の伸びが少し頭打ちで、輸出も横ばいとなっている。特に世界の需給に影響を与えるようなニュースは見られなかった。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス (以下「COMMi」という) が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願いします。



LOMMODITYINTELLIGENCE 株式会社コモディティー インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛎殻町1丁目11-3-310 会社電話: 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692

ペールアドレス: kondo@commi.cc